

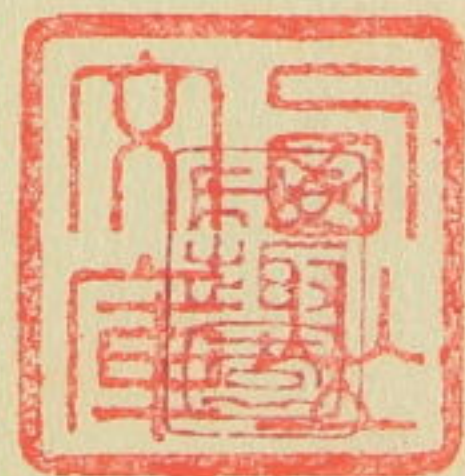


伊勢物語新釋
一

特別
イ 4
3163
203(1)



貴
什
3163
203(1)



伴勢あはれおのたまへ

あはれおのたまへおのたまへ

あはれおのたまへおのたまへ

大人はあはれおのたまへ

あはれおのたまへおのたまへ

5ent5er5er5er5er5
 1010101010101010
 1111111111111111
 2020202020202020
 3030303030303030

1010101010101010
 2020202020202020
 3030303030303030
 4040404040404040
 5050505050505050

一、
 二、
 三、
 四、
 五、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、

Handwritten cursive script on the right page, consisting of five lines of text within a rectangular border.

Handwritten cursive script on the left page, consisting of five lines of text within a rectangular border.

Handwritten cursive script on the right page, consisting of five lines of text within a rectangular border.

Handwritten cursive script on the left page, consisting of five lines of text within a rectangular border.

文化十二巻の二冊目
伊勢物語新釋

伊勢物語新釋



伊勢物語新釋

此物づくち... 文は詞をな... 古今和歌集よ... 伊勢物語新釋... 説くも... 古今意を... 今をす...

○拾穂おもしろいものあり
○此お語の本にあり
○新釋の末おもしろいものあり

○新釋の末おもしろいものあり
○拾穂おもしろいものあり
○此お語の本にあり

○師説とて志を以て故鈴乃屋お露の玉とてしるべきよし
らうりたせむしむしをいしていふなり

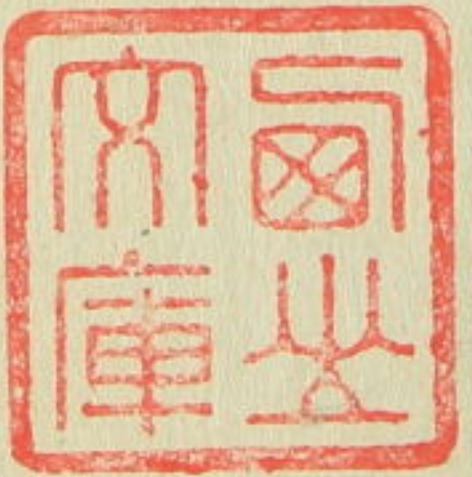
○伊勢物語とて人の事の上田松成とて一なり一なり
伊勢流のしるしもほゆるや又ちほゆる時代をたぐひし
とてなほ古来の説よりちかき物語にちかきもの
長きほえし物語よりいふはのほろの語はよき
をきしり又ちかきなまをいふはのほろの語はよき
新報よのほろの語はよき

○かきい人のまじりていふはのほろの語はよき
申じし人のまじりていふはのほろの語はよき

又まじりていふはのほろの語はよき
かきい人のまじりていふはのほろの語はよき
申じし人のまじりていふはのほろの語はよき
保えのまじりていふはのほろの語はよき
いふはのほろの語はよき

伊勢物語新釋一巻
初段

しうー男けわるるしうーしうーなほみやまはるがけ
里よまはるよーまて持よいささか



こいしーあゝ男答日け里よ領あのはるあうんしうーしうーわ
しうーまはるまはるなりてしうーしうー持よまはるしうーまはるまはる
臆断よ元眼しうーまはるしうーあゝあゝまはるまはるあゝははる
まはるまはるしうーしうーまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる

持よるに世の大名乃子の松丸なるに海持と
 して欲地を老らるる海もんとせしむるに
 なるに世の里の欲地なるに海持とせしむるに
 ○ 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50
 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70
 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90
 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

持よるに世の大名乃子の松丸なるに海持と
 して欲地を老らるる海もんとせしむるに
 なるに世の里の欲地なるに海持とせしむるに
 ○ 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50
 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70
 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90
 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

つう古き説あり古川辰夫東遊雜記よりいふに
け福崎の里にてあきれを召喚せし事ありは
事なりよき入なり今もあきれけいあり
りけいせいしよそをばらりせきん石のあは
かきもく草花をいふも藤布城のいれ
をいふよりけいめきを布いれし東
十里をいふもあきれよきあきれ
をいふといふもあきれけい
たきれ石のいれけいけいけい
かくかわけいけいけいけいけいけい

あきれけい

○あきれけいけいけいけいけいけいけい
きききき

あきれけいけいけいけいけいけいけい
ききききあきれけいけいけいけい
あきれけいけいけいけいけいけい
あきれけいけいけいけいけいけい
あきれけいけいけいけいけいけい
あきれけいけいけいけいけいけい

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and fluid, characteristic of early modern European cursive. There are some small red marks or corrections on the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is enclosed in a rectangular border. The text consists of about 12 lines of dense, flowing handwriting.

ふたりの間に又うけりていかにいふか〜
うけりていかにいふか〜
日記よきものなき〜
色あざ〜日記よきものなき〜
くた〜日記よきものなき〜
ぬり〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜

ろれ下のきに建保二年十月十日一の清のうけりていかにいふか〜
一円サ下〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜
〜日記よきものなき〜

主のそとんい書年のうちまごん家三十年前事なり西のこ
やま—志—まの西のまのそ尾—た—ゆえなりとまの
断の説おぢ—そも—業年朝臣のうちたにたご—ゆえ
はくええいれもまご物語のば—た乃おゆえ—作者のむ—
てかくえうゆ—まご—

○みやことかまごゆ—まご—古意の説よまご—
そお女世人あままごゆ—まご—か—まご—いんまご—
まご—

古意よ先大ひのまごてゆよほ—まご—とく又の辨なりゆ
い—まご—まご—古今集の序又お—まご—まご—まご—

ひ—まご—まご—格なり曉断よまごをけけてほ
む—まご—はてむのまご—まご—
まご—まご—まご—
ゆえまご—まご—

○か—まご—まご—まご—まご—
まご—まご—まご—
まご—まご—

古今和歌集よまご—まご—
まご—まご—
まご—まご—
まご—まご—

一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて

一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一はかりきりていふことなきをたほすことなるにんじきりて
 一に俗きよけいありていふことなきをたほすことなるにんじきりて

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on the left page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top left and moving towards the bottom right. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

ほのち...
つげ...
○思ひなく...
と...
むろ...
思ひあ...
むう...
四段
ぬ...
文徳天皇實録初巻嘉祥三年四月の西よ皇大夫人
移御五條院より事え...
五條皇太后より

を...
后の...
仁人...
あて...
そ...
あ...
か...
ふ...
あ...
な...
○勢後抄一
○十三

て拾種抄より親足書にゆゑの事なり。其の旨は、
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき

○ゆゑの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき

七月の事なるに申首は詞のたゞしき

まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき
まはたの事なるに申首は詞のたゞしき

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, possibly representing a list or a series of entries. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top right and moving downwards. The characters are highly stylized and interconnected, typical of historical cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is enclosed within a rectangular border and consists of about 10 lines of text. The script is consistent with the historical style seen on the other page.

とぞあはれしうらひてされしうらひなん此倉を人ともくうらひと
しむるにうらひ又かたむけしうらひはまはるのまをあらで倉
よすむけにたむけしうらひあはれしうらひにみゆきし中へたむけ
たむけしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひあはれしうらひに
さきりハウ矢太力なむけしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひ
あはれしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけ
らやまむけしうらひをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけ

あはれしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけ
らやまむけしうらひをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけ

ほえてくつた倉のうちふはうらひにみゆきし中へたむけしうらひにみゆきし中へたむけ
紀三井延暦十四年の所は毎郷更建倉院之狀下諸國畢
とるえつて人ともくうらひとるえつて人ともくうらひとるえつて人ともくうらひ
らやれしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけしうらひにみゆきし中へたむけ
人ともくうらひとるえつて人ともくうらひとるえつて人ともくうらひとるえつて人ともくうらひ
なむけしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけしうらひにみゆきし中へたむけ
今昔物語は利仁をたてて胡録とて其をあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけしうらひにみゆきし中へたむけ
胡録有てゆけしうらひのまをあらで倉よすむけしうらひにみゆきし中へたむけしうらひにみゆきし中へたむけ
カ古佐備周等都流岐多智許志爾刀利波枳佐都由美
平多爾伎利物知提阿迦胡麻爾志都久良宇知意伎波比

能利提阿蘇比阿留伎斯ニリテアソビアルキシとんゆまの山と憶良の神龜五年に
とめあかふそとる良の御方けさるまよはやくあまびいほくくまの
弓とまらけさるうまをさむらやまびい及のふとそまびつとま
うめかくやほらふよふくうらちくへおままのぬまうき板のま
ゆ志よりらねるべまびつてやままに戸口まをまをなうままい
るまのまをまふんふくくをつるまにいそん古意まわくくま
やれどいねいてほくくを律令またごまういさねくま
かろくにいふく軍防令に凡私家不得有鼓鉦弩弓稍具装
大角小角及軍幡と見え又日本書紀天武天皇は卷ふと詔
四方國曰大角小角鼓吹幡旗及弩施之類不應存私家

咸収郡家とそるえきさる矢をまごらそとのおほまを
弓矢太カハむういつのよとれ人のまをほまのなれまの軍
防令に凡國司毎年孟冬簡閱戎具とほくく義解に戎具
者國內百姓隨身弓箭力劍等之類也といつ隨身といへ
まをまをいへまをまをまをまをまを
○倉のあうまよ 男ハ 戸は子 ながくれ塗本ふまごま
戸はまをうやあまのハわう一戸はまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまを
まやねもほまのまを思いつわいあまを
うやまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

らまへくしてまねねもほほそとがしとまへくしてまへくしたんは
ねがふまへく古意の授はわらう
おめさね女まへくしとまへくしてまへくしてまへくしてまへくして
のねがふまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく

まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
わらうまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
遺云古語事之甚切皆称阿那とほくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく

まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく

○女まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく
まへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへくまへく

なまじし

○女なまじし
あまのうな

白むらたつとてお入の
一きむらと白むらと
しを今思へむらと
ほくくほくやうに命きえな
うな一むらとをむらと
ふむらとむらとむらと
なまじし

かむらとむらとむらと
あれに二條の后れむらと

七段

むらとむらとむらと
あつとむらとむらと
えむらとむらとむらと
しむらとむらとむらと
行天皇の御卷よ登碓日嶺
故号山東諸國曰吾孺國
しむらとむらとむらと
むらとむらとむらと

いせ屋住のほろひの海づきをゆくは信好いよあろくなつをえこ
 うこつてい海きなり磯づのさきゆくは信の舟よせてたうくち
 あらぬづくちろくえぬまをいひくへえまねにきぬは信と
 さるえぬまのいよじりあう入おるきほえりてさねに
 かりゆきし

いづれかきつてさしつとわんこらうなうかひとせらる信に舟
 ちがはせぬづきゆの信のさきゆくを磯づのさきゆくは信のめい
 ききとせぬづきゆの信のさきゆくは信のめいあまのききとせぬ
 と事なむききとせぬづきゆの信のさきゆくは信のめいあまの
 きては信のめいあまのききとせぬづきゆの信のさきゆくは信のめい

浪のくをえて又悉しきをひきはくつてさきゆくは信のめいあまの
 いのぬてわいて細舟にいづくも同意や万葉五の巻伊等
 ノキチヲミシホキモ、ヲバシキルトイトイフガヨク
 乃伎提短物乎端伎派等云之如 同卷、伊等能伎提痛
 キキスニハカラシホヲウツチナラガユトク
 伎痛尔波鹹塩遠灌知布何其等久なへえさなり
 ○さきゆくは信の舟よせてたうくち

八段
 けんをみくし

ひし 男けりまその男おをやうなむの思ひな
 してはあまのききとせぬづきゆの信のさきゆくは信のめい
 やうなむの思ひな

○塗本にうほふまゝがしつちう純本をいひて其の
序をよみて八段と九段といふて一段なりいはせの
本とこれ二段もつてこれやそれ後もうつれ人の目
事成らぬよかたきやけりまゝにけりまゝにけりまゝに
しつちうけりまゝに又ほの人の考もまゝに二段もや
けりまゝにすしつちうを和して二段もいふたゝそのなを
しつちうにせおけりまゝにまたつて文もつちうけりまゝに
そのまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
えりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
えていふていふて又八段のまやすしつちうにけりまゝに七段に
まゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに

よけりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
とまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
てかんやとまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
ちりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
こうを塗本ぞいふていふて

まれのまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
しつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
せりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
す人のまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
まゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに
まゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝにすしつちうにけりまゝに

とて世がよまへにげうけをいふもよまへのくちめ志に
高直のいけおつういさへよりえゆるものさへんをいふ
えはちさむむすの事なれどもうけがうけ解古志に大く
ろー拒刺をいふろー

○をちかこへ 巻本にまごう巻本よをちかこへに
ろーとまごうこへを右今集後撰集のうけ原氏物語に文
よをちかこへてゆるあつ詞をちかこへにまごうつう
とていづつな

まごうち友とゆる人いふわつうてまごうとていづつ
もまごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ

一五人よと同行すまごうとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ

○まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ

かへつとていづつとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ
まごうちとていづつとていづつとていづつとていづつ

みろそめ國カリキ... 橋の...
事ハ水のくも... 橋の...
んせしす...

いせの大を... 橋の...
わ... 橋の...
うそのわ... 橋の...
一た... 橋の...
橋... 橋の...
し... 橋の...
海... 橋の...

いづ澤を申... 橋の...
あ... 橋の...
さ... 橋の...
か... 橋の...

○塗本に... 橋の...
一澤... 橋の...
水... 橋の...
せ... 橋の...
さ... 橋の...

井の澤乃ほりけ本づげよありぬてまじりくも

本づけよちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
月のと向れくく日影いりふりやあつれむすしははよ
てまらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
ぬまらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
陰まらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
思ひほりくづし又日本書紀允恭天皇は巻よ到後春日食
干標井上イナヒキノナリの事ともさきかき同く井のあり標のまらあり
てまらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
かきいりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう

いりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
まらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
さきいりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
わしりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
古今集のうらの浦よるるてまらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
まらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
このかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
す万葉集のうらの浦よるるてまらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
うらなつらうちりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう
ほしりかきそ井はほりくづの盛なれはよのまらう

しと紙のつづきのとせの中に見ゆらうゆきくさうにうり
續日本紀よ令行旅人必齎錢為資困息重擔之勞亦知
用錢之便とらうるさう此作を何うつそ元明天皇は
和銅五年ゆて奈良の都れそたのほとけり息重擔之勞と
かきしひささちほりくさやえと紙もて飯を買やうけし
らて後いさうくそ紙中に紙を用ふさうなりぬま今れ亦よ
なりていさうしきを紙よさちほりくさやえのいさうくさ
昔よりいさうしきを紙よさちほりくさやえのいさうくさ
ひしめりゆらうとて飯の事されくよいさうしきを紙よ
しと紙のつづきのとせの中に見ゆらうゆきくさうにうり

とのをういにて池わり本とていさうしきのたまやあをさてま
るべしとれあがりよゆくいさうしきのいさうしきを紙よ
とのて飯をさうまほりてか一箇部の人をいさうしきの
をさうしきのいさうしきを紙よさちほりくさやえのいさ
る申けりいさうしきを紙よさちほりくさやえのいさ
蜻蛉日記よ大なるあつらへ本とていさうしきの車か
りていさうしきを紙よさちほりくさやえのいさ
アこまらほらんいさうしきを紙よさちほりくさやえのいさ
あつらへいさうしきを紙よさちほりくさやえのいさ
きんるべし

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document. The text is written in a fluid, connected style.

○塗本を本にすむるは、
今すむるは、
今すむるは、
今すむるは、

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and legible.

ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて

ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて
 ちとあまふしをいふにちかたの世にわたりて
 かたむなそふをいふにちかたの世にわたりて

ちのいそがひにいろく〜
まはりのいそがひのいそがひも
ちのいそがひのいそがひも
ちのいそがひのいそがひも
ちのいそがひのいそがひも

さほわび本あつはは者のぬまにちごそのりみうのいそがひ
のちのいそがひのいそがひのいそがひのいそがひ
よんえしりあはれのいそがひのいそがひのいそがひ
つひくまはれのいそがひのいそがひのいそがひ
ほまが今の本をいそがひのいそがひのいそがひ
いそがひのいそがひのいそがひのいそがひ
まが今本をいそがひのいそがひのいそがひ

人乃ほいそがひのいそがひのいそがひ
まが今本をいそがひのいそがひのいそがひ
いそがひのいそがひのいそがひのいそがひ
つひくまはれのいそがひのいそがひのいそがひ
ほまが今の本をいそがひのいそがひのいそがひ
いそがひのいそがひのいそがひのいそがひ
まが今本をいそがひのいそがひのいそがひ

かてあはれのいそがひのいそがひのいそがひ
まが今本をいそがひのいそがひのいそがひ
いそがひのいそがひのいそがひのいそがひ
つひくまはれのいそがひのいそがひのいそがひ
ほまが今の本をいそがひのいそがひのいそがひ
いそがひのいそがひのいそがひのいそがひ
まが今本をいそがひのいそがひのいそがひ

〇勢源抄紙一
〇三九
しうゑり更級の日記の文よりてあづきしたちてうなる
まごころのあつたきりしむをわすしむるたにぬの日記の
しうゑりしむるあつたきりしむるたにぬの日記の
おめりしむるあつたきりしむるたにぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の

それしむるあつたきりしむるたにぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の
ぬの日記の

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and connected, characteristic of a cursive hand.

九段
Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and connected, characteristic of a cursive hand.

一、*...*
 二、*...*
 三、*...*
 四、*...*
 五、*...*
 六、*...*
 七、*...*
 八、*...*
 九、*...*
 十、*...*

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

おし、およめがうらやまでもうとてこれと捨て捨て捨てるはなす極直
幹は身をまきしとてそのの物をはくわくし

^{十一段}

○友とてよ 塗土二本にまじりてまじりてまじりてまじりて
むし 男はちかき人のひまををぬきまじりてまじりてまじりて
くほらぬわすれなかるれでぬれよかゝるえられよか

まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
せーかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべー
追てかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべー
女をぞ草むしむ中よかゝるべーかゝるべーかゝるべーかゝるべー

されも女のじんまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

おし、およめがうらやまでもうとてこれと捨て捨て捨てるはなす極直
幹は身をまきしとてそのの物をはくわくし

みちをいへば野にまじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
おまじりて

おし、およめがうらやまでもうとてこれと捨て捨て捨てるはなす極直
幹は身をまきしとてそのの物をはくわくし

一 倭人其母の事ありていかにあはれきりては
 此の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 あつていかにいかにあはれきりては
 日本紀の日本武尊の事ありていかにあはれきりては
 よがやいかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては

一 倭人其母の事ありていかにあはれきりては
 此の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 あつていかにいかにあはれきりては
 日本紀の日本武尊の事ありていかにあはれきりては
 よがやいかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては

一 倭人其母の事ありていかにあはれきりては
 此の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 あつていかにいかにあはれきりては
 日本紀の日本武尊の事ありていかにあはれきりては
 よがやいかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては
 さつていかにいかにあはれきりては
 いかにいかにあはれきりては
 人の事いかにいかにあはれきりては

○勢後抄一

○四十八

日本紀の仁賢天皇は素戔嗚尊
 弱草吾妻何怜矣
古者以弱草喻
夫婦故以弱草為夫

今わら集行釋の與す行釋の例を以てし
 古意の後にしるす
 女を以てしるす

女を以てしるす
 女を以てしるす
 女を以てしるす

女を以てしるす
 女を以てしるす
 女を以てしるす



